駄文

麦頭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
駄文

【Ｎコード】
Ｎ７０４１Ｔ

【作者名】
麦頭

【あらすじ】
駄文。それ以上でもそれ以下でもなく。それ以外でもない。

000

粘着系男子の１５年ネチネチ　という歌がある。

この歌は大変好きである。

その歌の中にあるのは継続した思い。なくすことのできなかった思い。

だから決めた。パソコンを開いた日には、何かを書こうと思う。
日記と言っても簡単な話作りである。継続は力なり。僕はまだまだ文章作成について伸びていく余地はあると考える。
だったら出来るだけ頑張ろうじゃないか。

無理はせず、それでいて継続して書いて行こう。
無理をしなくても。それでも僕の何かを書いていけたのなら。
それをずっと発表出来たのなら、これほど幸せなことはないだろう。

今日からここに書いて行くものに少しだけ枷をつけよう。

絶対に編集をしない。

絶対に削除をしない。

きっと、間違いがあろうと、誰かの反感を買ってしまおうと、それでも自分が今日思ったことに違いはないのだから。

ここに書くのは僕から出た何か。

きっと見苦しいけれども、それでも一人の人間からあふれ出た思いでもあるのだろう。

そんなものが、この巨大な小説投稿サイトの片隅にあってもいいのじゃないだろうか。

お目汚しになるのかもしれない。ここはメモ帳じゃないと怒る方もいるかもしれない。

でも、僕は思う。

文字があって、言葉ができる。言葉が集まって、文章になる。文章が集まって、物語になる。

それが小説なんだとしたら、多分ここに書くものも、きっとそれは小説になるだろう。

だから、僕は書いて行こうと思う。

まぁぶっちゃけると、仕事をしているように見せながら時間を潰す、ということです。

そんな駄文。

001

仕事が忙しい。

言い訳である。

だが、そう言いたくなるのだ。

毎日毎日好きでもない曲をエンドレスで聴き、譜割りをし。

其の曲にあった構成を考え。

一曲のために何度も何度も打ち合わせを繰り返し。

本番前日には大失敗をする夢を見て飛び起きる。

当日は正直座る暇などありはしない。

次の日には機材整理が待っている。

労働基準法なんかは全力で無視され。

これっぽっちの少ない給料でこき使われる。

…まぁ、自分が選んだ道でもあるのだが。
それでも愚痴を言いたくなる時もある。

でもきっと、僕はこの世界が好きなのであろう。
そうでなきゃ一日でやめている。こんな仕事。
働いている人みんなそうだ。
みんながみんな、『まともの仕事じゃない』と口をそろえて言っている。
でも、新人以外で辞める人は少ない。
辞めた人も、結局戻ってくる人が多い。
だったら、もう少しだけ、頑張ろうかな。

とまぁ仕事の愚痴を書き連ねたところで、少し時間が取れたので、
次回から色々書いて行くことにしよう。

…なにを書くかとんと決まらなかったので、友達にお題を要求した。

『おっぱい』『ふともも』『魔法使い』『納豆』『転生』

…何だかなぁ…。

次回はなにから書いていこうかなぁ。

００２　『転生』（前書き）

最初に選んだお題は、『転生』です。
さてどうなるのでしょう。

００２　『転生』

最近なんだかつまらない。
あれはそういう顔をしている。

私には友達がいる。この世界を一緒に作った奴ら。
もう何十年も前の話になる。

そいつらのほとんどはこの世界に満足したのか私にこの世界を任せて違う世界に行った。薄情な奴ら。
ただ、この世界が気に入ったのが三人。そいつらは、この世界の重要な役割を担い、この世界に残ることとなる。

そのうちの一人。

魔王。

この世界でそう言われているやつがいた。

久しぶりにそいつの家…城？に遊びに行ったのだが、なんとも微妙な顔をしていた。なんだかすごく退屈しすぎて表情の作り方がわからなくなったような顔。

あぁ、あれはマズイ。凄くマズイ。

世界を壊す表情をしている。魔王になっている。役割ではない、本当の魔王に。

私は適当な理由をつけて帰った。少し魔王は残念そうだったがそんなことは知ったこっちゃない。

私はこの世界が結構好きなのである。その世界を壊すなんて私は許さない。

家にたどり着いた。とりあえずお茶を入れる。一息つく。

そして頭を抱えた。

マズイ。本当にマズイよ。どうすればいい？どうすればあれを止められる？

考えろ。私は何ができる？

彼は魔王。それが役割だ。停滞した時に物語を先に進めるために作った役割。

だけど彼は退屈だから、まだ停滞するほどの成長すらしていないこの世界を壊そうとしている。

まだ成長していないこの世界では魔王を倒す存在は生まれていない。

それが生まれるのはまだ数百年かかる。いわゆる勇者だ。この世界は一度中世で停滞する。そしてそれが続いたとき、魔王が世界を滅ぼさんとし、そして勇者が生まれる。

そう設定した。

そう、設定したのだ。私が。

私の役割は創造主。いわゆる神なのだから。

そしてその役割が私を縛る。

神は、何もしないから神なのだ。

神は世界に干渉しない。あくまでも神は観測者。この世界に生まれ

出た何物にも干渉できない存在なのだ。想像することはできても破壊することはできない。しかもすることもできない。

だけどそれでも何とかしないと。

なんとか、なんとかしなきゃいけないんだ。

この世界を壊される前に…。

考えろ、考えろ、考えろ…。

…じゃ、生まれ出る前に何とかすればいいんじゃない？

…生まれてきたときにすでに最強ならいいんじゃない？

どっかの世界から凄い頭良かったり、なんか特殊能力持ってたりした人を転生させれば魔王斃してくれるんじゃない？

そうだ、それがいい。

きっと斃さないまでも、彼の退屈くらいは紛らわせられそうだよね。

よし、そうしよう。

そうと決まれば連絡だ。

私はいそいそと世界観通話の線をつないだ。

００２　『転生』（後書き）

…何だろう、最初に考えたプロットは一行も出てきていません。

まだ。

プロローグにしかならなかった。

気分が乗ったら続きをかこう。

次のお題は何にしようかな―。

００２　『転生２』

まず最初に私がしたのは知り合いに連絡を取ることだった。
この世界を作ったうちの一人。
その子は女の子で役割は天使。後、美人。
神の先兵として世界を導き、英霊たちを理想郷に迎え入れる。
…やっていることはワルキューレだが。

その子に連絡をとってみた。

もしもし、久しぶりー。早速だけど、転生者を作りたいんだ。一人でいいんだ。うちの魔王を倒すくらいの子を。

『で？』

それで大変申し訳ないんだけど、そちらの強い子を一人貸していただけないかな―？

『嫌。』

ぶちんっ。

通信が切られました。

めげずに再度トライ。

いや、話くらい聞いてよ。

『なによ。』

あのね、いまこっちの世界がね（説明中）て感じなのよ。

『ふーん。大変ね。』

うん。そうなんだよ。凄い大変なんだよ。
それで、お願いなんだけど、一人、一人でいいんだ。こっちの世界を助けてくれるために貸してくれないかな？

『嫌。』

…なんでさ。

『あのね。いくつかあるけどあまりにも自分勝手すぎない？あんた。』

…うん。自分でもそう思う。でも、それでも自分の世界を壊したくないんだ。

『そう。その世界に愛着があるのね…。ならわかるわよね。私は一人たりとも渡すつもりはない。』

…。

『私の世界の英雄たちは確かにあなたの世界の崩壊を止めるかもしれない。でも、私の子どもたちを。戦って、世界の英霊となったものを。死後の世界で好きに生きている彼ら、彼女らを。私はまた生の苦しみに堕とすことはできない。』

…そう。

『だから、無理。誰も渡せない。』

本音は？

『せっかく作ったハーレム！いろんなタイプの男女をそろえたこの極楽をなんでそんなことで崩さなきゃいけないのよ！くだらない！』

よくわかりました。もう頼むもんか。ちくしょー。

『落ち着いたら遊びに来なさい。お菓子とお茶くらいは出してあげるから。じゃね。』

わかった。またね。

ぶちっ。

けち。

だったら他の方法を考えてやる！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7041t/

駄文

2011年10月7日17時05分発行